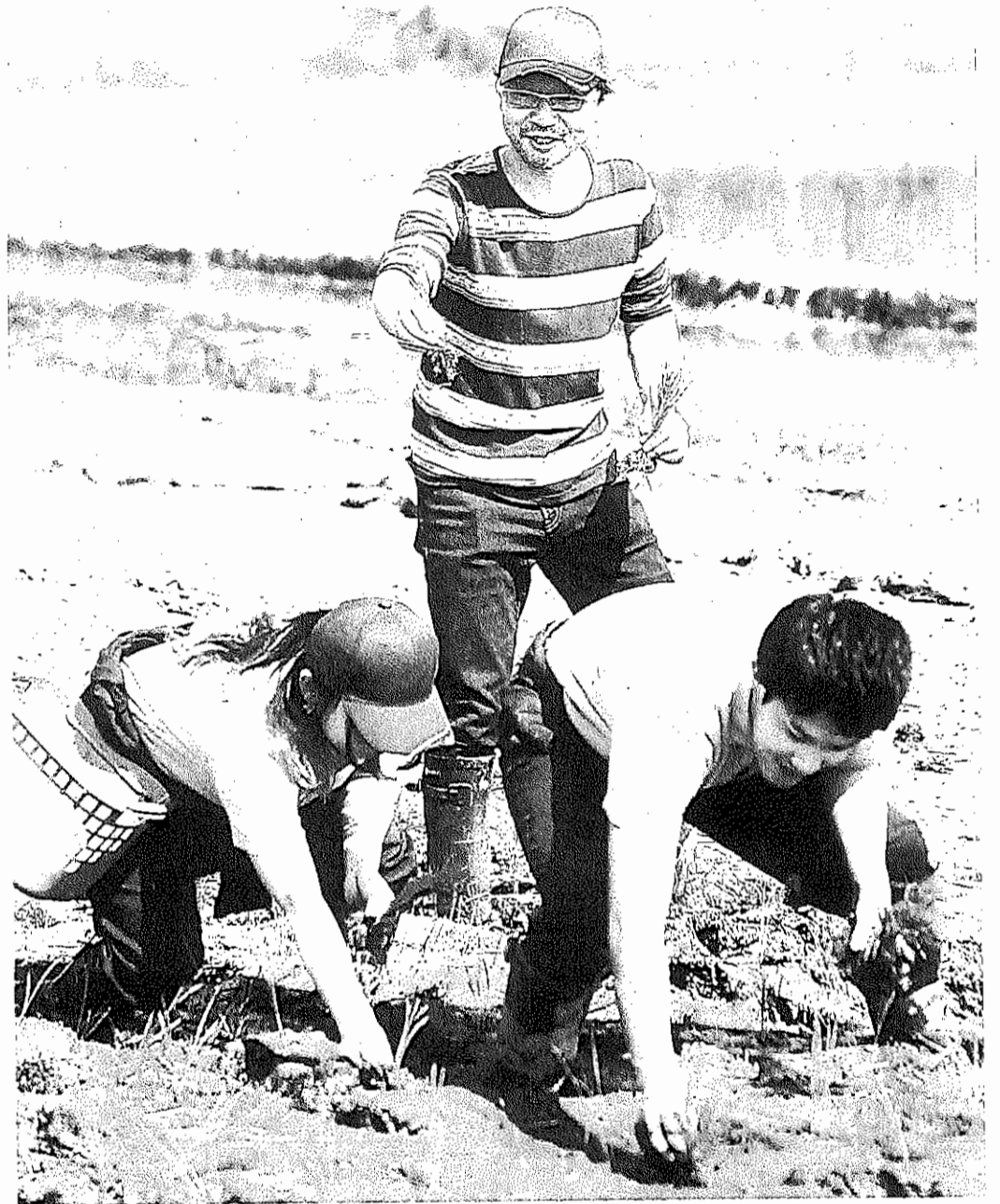


力を引き出す 指導者 福島

26



学生の田植えを見守る小山さん(中央)。原子力災害からの食と農の再生が授業のテーマだ

福島の農業再生担う人材を

福島市の福島大キャンパス。東京電力福島第一原発事故から約10年、同大経済経営学類教授を務める小山良太さん(左)は、故郷の風評払拭を目的とした「おこし」のゼミ生が稲作を体験する水田だ。田植えから収穫まで一連の流れを学ぶ。将来、行政マンなどとして農家を支える人材の育成を目指し、「福島の農業が再生する」

小山良太さん(左)は、故郷の風評払拭を目的とした「おこし」のゼミ生が稲作を体験する水田だ。田植えから収穫まで一連の流れを学ぶ。将来、行政マンなどとして農家を支える人材の育成を目指し、「福島の農業が再生する」

福島大経済経営学類教授

小山 良太さん

こやま・りょうた 東京都出身。北海道大大学院農学研究科修了。平成17年、福島大経済経営学類教授となった。26年から同学類教授。福島大のつくしまふくしま未来支援センター農・環境復興支援部門長を務めている。専門は地域政策論、農業経済学など。

るためには、生産から流通まで農業のシステムを理解した人が必要になる」と話しているが売上が伸び悩んでいるのが農家の姿に心を痛めたという。食を支える代に生物学に興味を持ち、獣医師を目指して北へ、大学院に進み農業を専攻した。

平成十七年に福島大経済

行動力のある先生



福島の農業を、幅広い視点で捉えたい。行政職を経験した小山良太さん(3年)

とてもある。熱心な指導者。先生もやるべきことを、福島の農業を、幅広い視点で捉えたい。行政職を経験した小山良太さん(3年)

年に学内企業「福大まちづくり会社マルシェエフ」を設立。六次化商品企画し、赤字となっている地域ビジネスの支援や県産品のPRなどを学生主導で進めてきた。

昨秋にはJAや地元の農業法人と連携し、コメの食味を競う「ふくしま・かわまた米コンテスト」を初めて開催した。農家の生産意欲を高め、県産米のブランド力を向上させるのが目的だ。おかわり農園で収穫したコシヒカリを出品した。イベントやビジネスに直接、関われば学生の農業経営に対する理解度も上がると信じている。

福島大は三千年春、県内初となる農学系人材育成組織(農学類)の設立を予定している。「目的意識を持ち、地域振興を担う学生を育てたい」と言葉に力を込める。

読者参加

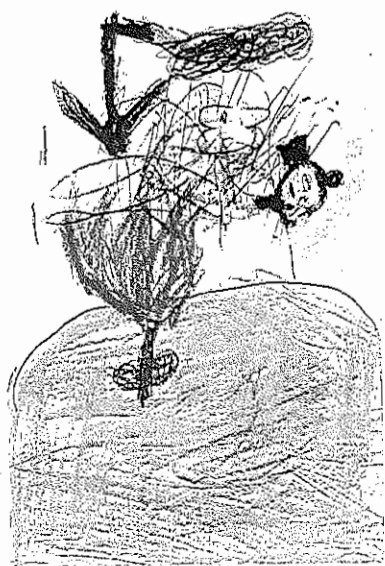
コーナー

作文、詩

松本 彩瑚さん
(いわき市・鹿島小2年)

「なりきり作文」
わたしは、ねこのニャーです。ひなたぼっこしながらゴロゴロするのが大好きです。さむいところは、大きいです。夜は目が光ってしまふのでかくれんぼができません。ニャー毎日お友だちとおはなしをするのが大好きです。

高玉 凜ちゃん
(南相馬市・みなみ幼稚園)



石井 亜美さん
(郡山市・行健小2年)

